

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名

肖 宇彤

論 文 題 目

中国人日本語学習者の意見文に関する研究  
—日本語教育現場における有効な指導法をめざして—

論文審査担当者

主査	名古屋大学教授	許	明子
委員	名古屋大学教授	浮葉	正親
委員	名古屋大学准教授	石崎	俊子
委員	名古屋大学准教授	俵山	雄司

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、アカデミック・ライティングにおける意見文を取り上げ、中国人日本語学習者の意見文に関する文章観や文章構造の特徴を明らかにし、有効な指導法を提案することを目的としている実証的な日本語教育学の研究である。

本論文は全7章から構成される。序論は第1章であるが、本研究の背景と目的について述べている。第2章では文章論における文章研究及び日本語教育における文章研究を概観し、本研究の分析観点となる文章観及び文章構造に関する先行研究を概観した。これまでの日本語学習者の文章に関する研究は文章そのものの解明が中心になったり、日本語母語話者との比較に重点が置かれたりしていた。本論文では、中国人日本語学習者が書いた意見文の文章観と文章構造の解明を行うだけではなく、学習者の母語である中国語の文章観が日本語の意見文の学習にどのような影響を与えるかについて検討し、中国人日本語学習者の意見文の学習における問題点の根底に迫る分析を行った。第3章では、中国人学習者の意見文における文章観の特徴を解明するために、中国語の「議論文」における文章観と比較しながら、「意見文」に対応する中国の文章ジャンルとは何かについてアンケート調査を行っている。その結果、中国人学習者の中に「意見文＝議論文」という認識が見られたことから、中国語の「議論文」について中国語の「高考」という範疇において分析を行った。評価基準から「良い議論文」の特徴として、素材への重視度が高いこと、綺麗な言葉遣いが望ましいこと、「抒情」という表現手法が重視されること、一文が一つの形式段落になる「強調段」が出ることが分かったが、これらの特徴は中国人日本語学習者が書いた意見文の中に、「主張」の非明示、及び「強調段」の出現という2点で、「議論文」の文章観から影響を受けていることを明らかにした。第4章では、中国人学習者の意見文における文章構造を分析し、その特徴を日本語母語話者の意見文と比較しながら検討しているが、文章構造を「意図の構造」「意味内容の構造」「文脈展開の構造」という3つの層に分けて分析している。「意図の構造」の分析では、形式段落を単位として構成要素について分析した結果、[問題提起][根拠][譲歩][提言][状況説明]において中国人日本語学習者と日本語母語話者の間に優位差があることを明らかにした。「意味内容の構造」の分析では、言語形式上の指標を参考に意見文における文の機能を分析しているが、中国人日本語学習者の意見文では「事実を述べる文」が60%以上を占めていることが明らかになった。「文脈展開の構造」の分析では、「主題主語」と「主格主語」の使用状況について中国人日本語学習者の意見文に「主題主語」の多出の特徴があることを解明した。特に、課題文にあげられていない情報（つまり新情報）を主題として持ち出した主語が多く、形式段落における主語の連鎖の展開型について日本語母語話者の意見文と異なる傾向があることを明らかにした。日本語母語話者の意見文は、「既出事実/一般的な命題」で段落を締めくくり、後続する段落は「既出事実/一般的な命題」で始めるという展開の型が特徴的であるのに対して、中国人学習者の意見文は、「新出の事象」で段

## 論文審査の結果の要旨

落を締めくくり、後続する段落は「新出の事象」で始めるという展開の型が特徴的であることを明らかにした。第5章では、第4章の中国人学習者と日本語母語話者の意見文における文章構造に対する分析の結果に基づいて、それぞれのグループの文章構造を可視化している。「意図の構造」と「意味内容の構造」のそれぞれを個別に可視化した結果、意図の構造の展開方向では、中国人日本語学習者は水平方向の展開に偏り、日本語母語話者は垂直方向の展開に偏る傾向があることを明らかにした。また、中国人日本語学習者の意見文は「鎖状の水平構成」が特徴的であり、日本語母語話者の意見文は「連続的垂直構成」が特徴的であること、「意味内容の構造」の可視化の結果から文機能と文型の関連性があることから、中国人日本語学習者の意見文には事実の機能を持つ文の使用率が高いことを明らかにした。「意図の構造」「意味内容の構造」「文脈展開の構造」という3つの層を合わせて、中国人日本語学習者の意見文における文章構造を可視化した結果、マクロな視点から全体的に水平的な展開の傾向があり、文章は新出事象の提示で書き始め、既知事象の提示で書き納めていることを明らかにした。また、ミクロな視点から分析した結果、事実の機能を持つ文で書かれ、判断文が多いこと、文章の冒頭部は事実を述べる文で書かれ、中心部は意見を述べる文が現れ、結末部は意見を述べる文で書かれていることを明らかにした。第6章では、第3章での分析から見られた中国人学習者の意見文に対する文章観の特徴、第4章での分析から得られた中国人学習者の意見文の文章構造の特徴、そして、第5章の中国人学習者の文章構造の可視化した図を踏まえ、中国人日本語学習者向けの意見文指導の項目を整理した上で、「反省的な授業実践」を行っている。中国人日本語学習者を対象とする意見文の指導において効果的な指導法について検証を行った結果、本論文で得られた指導項目を取り入れた授業実践が効果的であることが実証されている。

本論文は中国人日本語学習者の意見文について文章構造の可視化というマクロな観点と意見文の指導項目を抽出するといミクロな観点から分析を行った点で学術的な意義がある。それと同時に、教育実践を通して有効な指導法を提案した点で実践的かつ実証的な研究であることから日本語教育学の発展に貢献できる点で高く評価できる。

本論文の課題としては、第6章で行った反省的実践が文章論や文章構造の研究においてどのような学術的な意義を持つかや、中国人日本語学習者の意見文の習得の過程において本研究の成果がどのような持続的な有効性を持つかについて検証が必要であることが指摘できる。しかし、これらの点についても論者は自覚的であり、本論文の検証と今後のさらなる実証的な研究の取り組みによって十分に克服されうる。

本研究の成果は中国人日本語学習者を対象とする教育現場に応用できる実証的な研究であり、以上により、審査委員一同は一致して、本論文が博士（学術）学位に相応しい成果であると判定した。